

指導方法等の改善計画について〔国語科〕

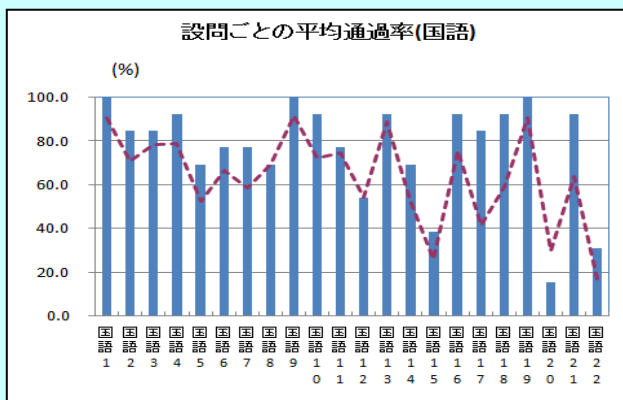
神石高原町立油木小学校

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校76.6%, 県63.7%)

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



本年度の結果について

○全体的な傾向について

国語の結果において、タイプⅠは81.4%、タイプⅡは46.2%の通過率となっている。この結果から、基礎的・基本的な内容については定着が図られていると考えられる。県平均と比べるとタイプⅠ、Ⅱともに上回っているが、文章を書く力に課題がある。文章を構成する力は身につけてきているが、必要な情報を資料から読み取りそれをもとに記述する力が十分ではない。

○昨年度の課題への取組の成果

昨年度は、資料から必要な情報を取り出し、それらに関連付けて記述することに課題があった。学習して読みとったことを提示された条件に応じて書かせることにより、「書くこと」の通過率は75.0%から92.3%になり文章を構成する力は高まった。しかし、必要な条件を自ら見出し記述する力は十分ではない。

重点課題

【課題1】

資料から必要な情報を取り出し、取り出した情報を関連付けて記述することができた児童は、15.4%、取り出した情報をもとに理由や事例を挙げて論理的に記述することができた児童は30.8%であった。必要な情報を取り出す力、取り出した情報を関連付けて文章を書く力に課題がある。

【課題2】

中心となる語や文を把握し、書き抜くことのできた児童は、38.5%であった。文章のまとめがどの部分に書かれているのかを把握し、中心となる語句を書きぬくことに課題が見られる。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法（授業）

【課題1】

百科事典などの資料を効果的に活用し、長文と資料から必要な情報を取り出す場面を設定する。また、資料のどの辺りに必要な情報が示されているのかを把握する力をつけるために、文章全体を視点をもたせて読むことを継続する。さらに資料に書かれていることから見出したことに印をつけながら読み、文と文、段落と段落等書かれていることを関連付けて読み進めていく学習を取り入れる。記述力を高めるために、書いたものを読み返すことを習慣化させるとともに、どういう視点で読み返すのかも理解させる。また、記述したものを検証する場面を設定し、どうして違うのかを考えさせる活動を取り入れる。

【課題2】

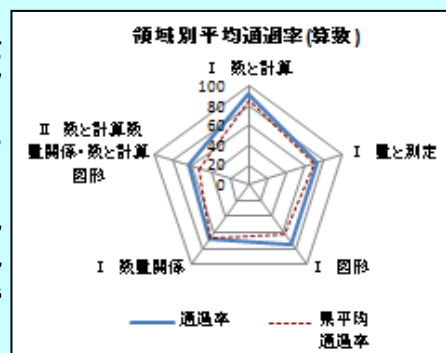
段落構成図を書かせることで文章に書かれている話題、理由や根拠となっている内容、構成の仕方などに着目できるよう指導する。また、接続後に着目させ、文章と文章を関連付けて読ませる。

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			5年生 H.28「基礎・基本」	4・5年生 学期末テスト	全学年CRT	4年生 H.28「基礎・基本」	4・5年生 学年末テスト
目標値			80.0%	85.0%	全国平均より8ポイント上	75.0%	85.0%
実施後数値							

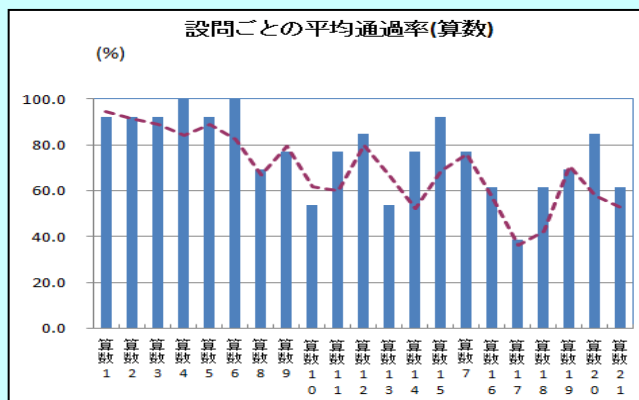
【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			5年生 H.28「基礎・基本」	4・5年生 学期末テスト	全学年CRT	4年生 H.28「基礎・基本」	4・5年生 学年末テスト
目標値			80.0%	85.0%	全国平均より8ポイント上	75.0%	85.0%
実施後数値							

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校76.6%, 県69.4%)

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



本年度の結果について

○全体的な傾向について

算数の結果において、タイプⅠは80.8%、タイプⅡは63.1%の通過率となっている。この結果から、基礎的・基本的な内容については定着が図られていると考えられる。タイプⅡについても県平均より5.8ポイント上回っており、知識・技能を活用する力もおおむね付いてきているといえる。

○昨年度の課題への取組の成果

昨年度は図形領域で課題が見られた。図形の構成要素に着目させて調べさせたり、図形の特徴と作図(操作)の意味を関連付けて説明させたりする活動を意図的に取り入れた。その結果、図形領域での通過率は50.0%から74.4%になり成果が見られた。しかし、依然として立体の構成要素の関係を把握することには課題がある。

重点課題

【課題1】「数と計算・数量関係」(タイプⅡ)

目的に応じた計算結果の見積もりをし、計算の仕方や見積もりについて適切に判断できている児童が38.5%であった。およその数にする場合は四捨五入であると考えてしまい、目的に応じた見積もりの仕方を判断することに課題が見られる。

【課題2】数量や図形についての知識・技能

問題文の条件を満たす時刻を正確に求めることのできた児童の割合は、53.8%、指定された面に対して垂直な辺を正しく選択した児童の割合は、53.8%とどちらも県平均を下回っている。数量や図形についての基本的な知識・理解に課題があると考えられる。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法(授業)

【課題1】

実際の生活の場面でどのように見積もりが使われているのかを考えさせたり、見つけさせたりするなど、実生活と関連付けて学習に取り組ませる。また、見積もり(切り上げ・切り捨て・四捨五入)をする場面を把握させ、それぞれの見積もりのよさについて考えさせる。

【課題2】

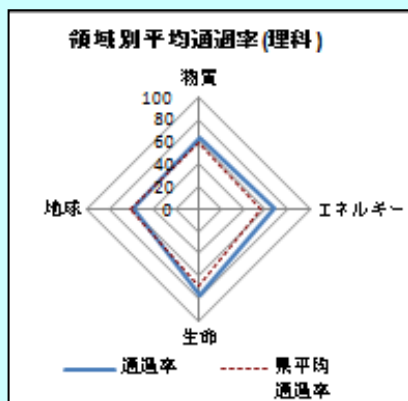
1 単位時間の授業の中で、学んだことを使って自分自身で問題と向き合う場面を取り入れる。また、間違えに対して、なぜ間違ったのか、どこが間違ったのかを分析する機会を設定する。実生活や具体物と結び付けて考えさせるなど、机上の理解だけでなく、体験での理解ができるよう算数的活動を多く取り入れる。

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			5年生 H.28「基礎・基本」	4・5年生 学期末テスト	全学年CRT	4年生 H.28「基礎・基本」	4・5年生 学年末テスト
目標値			80.0%	85.0%	全国平均より8ポイント上	75.0%	85.0%
実施後数値							

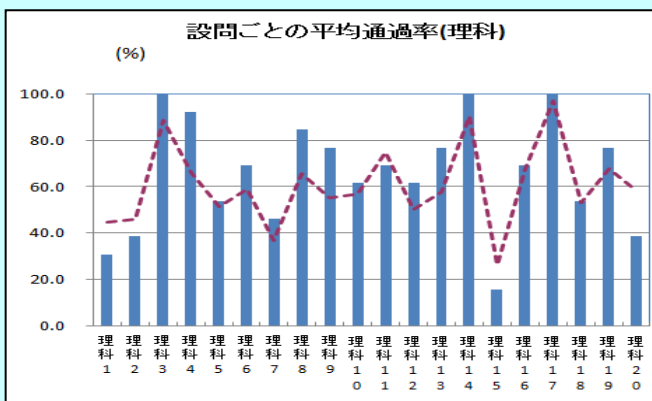
【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			5年生 H.28「基礎・基本」	4・5年生 学期末テスト	全学年CRT	4年生 H.28「基礎・基本」	4・5年生 学年末テスト
目標値			80.0%	85.0%	全国平均より8ポイント上	75.0%	85.0%
実施後数値							

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校65.8%, 県60.6%)

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



本年度の結果について

○全体的な傾向について
理科の結果において、タイプⅠは73.4%、タイプⅡは51.6%の通過率となっている。この結果から、基礎的・基本的な内容の理解と知識・技能の活用の両方において、課題があると考える。特に地球の領域の通過率は県平均より下回り 59.0%であった。

○昨年度の課題への取組の成果
昨年度は観察・実験の技能について課題が見られた。そこで、観察・実験の学習活動で一人一人が器具や道具を使う機会を多く設定するとともに、正しく使用しているかどうかを確認した。その結果方位磁針の使い方の通過率 76.9% (昨年度 33.3%)、回路のつなぎ方の通過率 76.9% (昨年度 22.2%) であり、成果が見られた。

重点課題

【課題1】 自然事象についての知識・理解について

ものの重さの比べる場合には、体積を同じにして重さを比べなければならないことを理解している児童は 30.8%、星の並びや動き方について理解している児童は 38.5%であった。基礎的な事項の定着を十分に行う必要がある。

【課題2】 科学的な思考・表現について

正午にかげができる位置を太陽の動きから推測し、そのわけを正しく記述した児童の割合が 15.4%であった。かげのできる位置は理解しているのだが、そのわけを正しく記述することができていない。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

【課題1】

実験・観察の機会を多く設定し、結果からきまりを発見していく学習に取り組む。また、実験・観察したことやまとめを正しい理科用語を使って自分の言葉で記述させる。さらに、既習を使って予想し、観察したり実験したりして、着実な定着を図る。星の動きの学習では、家庭との連携を図り、様々な方位での星の観察を行う。

【課題2】

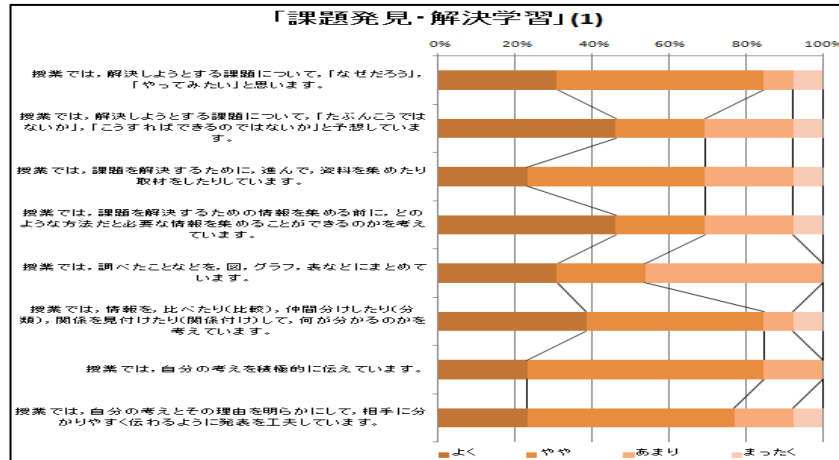
実験・観察の結果から分かったことを考察する場面で、自分で記述させる場面を設定する。また、考察時に必要な言葉を示し条件をつけて考察を書かせたり、考察した文章に必要な理科用語が使われているか、内容に落ちがないかなど検証させたりして、正しい記述の力を習得させる。

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			5年生 H.28「基礎・基本」	4・5年生 学期末テスト	全学年 CRT	4年生 H.28「基礎・基本」	4・5年生 学期末テスト
目標値			80.0%	85.0%	全国平均より8ポイント上	75.0%	85.0%
実施後数値							

【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			5年生 H.28「基礎・基本」	4・5年生 学期末テスト	全学年 CRT	4年生 H.28「基礎・基本」	4・5年生 学期末テスト
目標値			80.0%	85.0%	全国平均より8ポイント上	75.0%	85.0%
実施後数値							

質問紙調査（「基礎・基本」定着状況調査：児童質問紙調査）

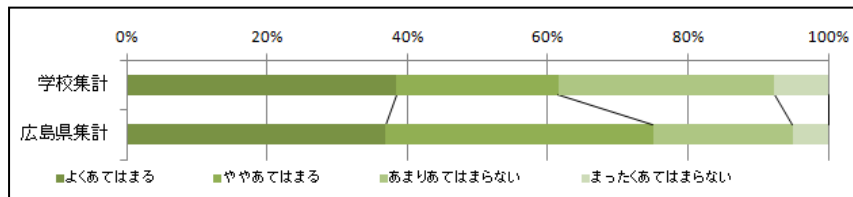
(1) 生活・学習



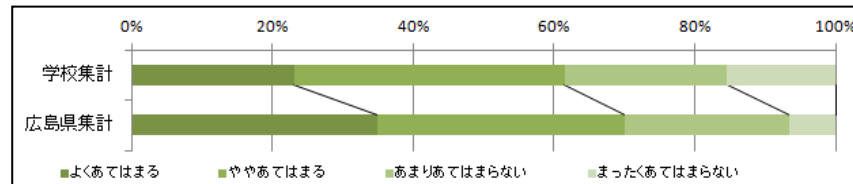
児童の回答についての課題 (現状値)	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
「授業では、調べたことなどを、図、グラフ、表などにまとめている」児童の割合が、53.8%である。	<ul style="list-style-type: none"> 課題解決に向けての調べ学習の機会を設定し、調べたことを図・グラフ・表にまとめる場面を取り入れる。 調べたことをまとめる方法を知らせるとともに、図・グラフ・表を使ってまとめることのよさを実感させる。 	5	80%	児童アンケート	12月		

(2) 教科

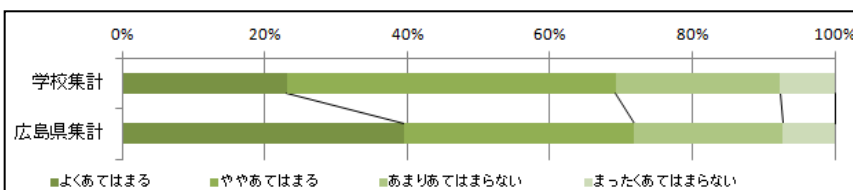
国語の授業では、中心となる言葉や文を見付けたり、段落と段落のつながりに注意したりして文章を読んでいます。



算数の授業では、式が何を表しているかを考えたり、式に当てはまる問題を作ったりしています。



理科の授業の中で、学んだことのふり返りをしています。



	児童の回答についての課題 (現状値)	授業改善の方向性や具体的な取組	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
国語	「国語の授業では、中心となる言葉や文を見付けたり、段落と段落のつながりに注意したりして文章を読んでいる」児童の割合が、61.5%である。	<ul style="list-style-type: none"> 段落構成図をかかせることで、文章に書かれている話題、理由や根拠となっている内容、構成の仕方などに着目させる。 接続後に着目させ、文と文のつながりを正しく把握させる。 	5	90%	児童アンケート	12月		
算数	「算数の授業では、式が何を表しているかを考えたり、式に当てはまる問題を作ったりしている」児童の割合が、61.5%である。	<ul style="list-style-type: none"> 問題・式・図を関連付けて説明させたり、立式の理由をノートに書き込んだり、友だちに説明したりする。 友だちが立式したものを、他の児童が立式の意味を説明する場面を設定する。 問題づくりを取り入れる。 	5	90%	児童アンケート	12月		
理科	「理科の授業の中で、学んだことのふり返りをしている」児童の割合が、69.2%である。	<ul style="list-style-type: none"> 考察、まとめで終わるのではなく、学習のふり返りの時間を設定する。 ふり返りの視点を示し、学習のふり返りの習慣化を図る。 	5	90%	児童アンケート	12月		